



小金井市ごみゼロ化推進会議  
三市ごみ減量推進市民会議  
東京都小金井市 林 和夫 さん



ロンドンの  
中心街で一人  
「プラごみ禁止」を  
訴える男性

**Q** 差し支えなければ、年齢と出身地を教えてください。

**A** 団塊の世代にちょっと遅れて1951年生まれです。生まれは川越ですが、小学校2年の時に小金井市に移って60年を超えました。

**Q** ごみ問題に関心をもつようになったのは何故ですか？

**A** 小金井市は自前のごみ処理施設の老朽化による建替えができなくなって以来、20年以上に亘ってごみ焼却施設が持てませんでした。そんな中で、市政の最重要課題として「ごみ焼却場問題」がクローズアップされ、「失言」を理由に新任の市長が辞任するという事態にまで至りました。

50年以上住んで、会社時代はほとんど寝に帰るだけの小金井でしたが、この「ごみ問題で市長が辞任」という事態を目の当たりにして、「ごみ」と「市政」の繋がりに強い関心を持ちました。まずは、我が家の生ごみの自家処理をしようと、市の補助金を受けて生ごみ処理機を導入しました。

7年前に定年退職するとさっそく市が募集する「ごみゼロ化推進員」に応募し、「ごみゼロ化推進会議」の啓発部会のメンバーとして活動を始めました。その後は、市の「廃棄物等減量推進審議会」の委員、日野市、国分寺市と小金井市の「三市ご

み減量推進市民会議」の委員を務めるようになって、現在も活動を続けています。

**Q** ごみかんに入会して下さったきっかけは？

**A** 市内でごみの分別・減量活動に参加する中で、ごみ・環境ビジョン21の主催する講演会に参加し、他市の取り組みや世の中の動きを知るのに役に立つと入会しました。

**Q** ごみ問題に関ること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

**A** 学生時代に最初に訪れて以来、半世紀近くイギリスの大ファンです。デボン州にあるアーネスト・サトウ（幕末から明治期に来日したイギリス外交官）のお墓参りには2度も行ってしまいました。今年97歳になったロンドンの友人との交流も楽しんでいます。また、会社勤めの終わりころから習い始めた油絵もイギリスの風景を題材にしたものが多いです。



**Q** 特筆すべき近況があれば、教えてください。

**A** 最近、イギリスに行ってもごみ問題や環境問題に目がいきます。

大雑把に言って、街のポイ捨てごみは日本の方が少なく、国民のモラ

ルも高いように感じますが、どの町にでもあるリサイクルショップの取り組みやスーパーなどの食品売り場でプラスチックを使わない取り組みなどは、見習うところが多いと思います。

今、日本国内でも、ペットボトル利用削減のために、どこでもマイボトルに給水できるように給水スポットを増やす活動を Refill Japan が始めていますが、イギリスでは一足早く、店先に「ここで給水できますよ」というステッカー（左写真）を表示し、Google Map 上に給水スポットを表示する活動が始まりました。

リサイクルについていえば、慈善活動の伝統でしょうか、驚くほどたくさんのチャリティショップが街の目抜き通りに店を構えています。

家に関しても、50年、100年を経た中古住宅を購入するのが珍しいイギリスでは、購入した家のリフォームを自分で行うのはもちろんのこと、古い家具などを大切に使い続け、リサイクルショップの品物を活用するなど、私たちが真似したい伝統的な質実剛健文化も残っているようです。